

Laurent Beuf・藏野憲秀・宮地重遠：単細胞海産緑藻の無機炭素同化に対する細胞外 pH の影響

Laurent Beuf, Norihide Kurano and Shigetoh Miyachi: Effect of external pH on inorganic carbon assimilation in unicellular marine green algae. 48: 47 - 54.

3種の海産緑藻の酸性 (pH 4.5) あるいはアルカリ性 (pH 8.0) 条件における炭酸脱水酵素 (CA) の誘導を調べた。いくつかの淡水産緑藻に見られるような酸性条件での細胞外CA誘導の阻害は, *Chlorella saccharophila* においてのみ認められた。他の2種, *Chlorococcum littorale* と *Stichococcus bacillaris* では, 両 pH においてCA誘導にはっきりした差がなかった。酸性条件で生育した *C. saccharophila* の細胞 (この酵素は抑制されている) とアルカリ性で生育した細胞は同等の無機炭素 (Ci) 利用能力を有しているため, 細胞外CAの正確な役割は不明である。*C. saccharophila* の細胞内 pH は培養に用いた培地の pH によって影響を受けることはなかった。培養条件にかかわらず, 炭酸固定に関連する諸活性, すなわち, 光合成酸素発生, 無機炭素取り込みと同化は酸性条件で測定すると活性が亢進していた。これは, この海産緑藻が  $\text{HCO}_3^-$  以上に  $\text{CO}_2$  を効率よく利用できることを示している。酸性条件で生育した細胞には無機炭素取り込みと同化にかかわる特別なシステムは認められなかった。(海洋バイオテクノロジー研究所)

## 学会・シンポジウム情報

### 自然史学会連合シンポジウムのお知らせ

自然史学会連合では, 今年もナチュラルヒストリー (自然誌) を議論するシンポジウムを下記のように開催いたします。一人でも多くの藻類学会員の参加をお願いいたします。

タイトル: 「21世紀の自然史科学における画像データベース」

日時: 2000年10月14日 (土) 13時から17時

場所: 国立科学博物館新宿分館 研修研究館 4階講堂

博物館のキュレーティング実務, 標本情報の提供, 教育手法の刷新などにおいて, 画像データベースは新たな展開を見せてきました。そこで今回のシンポジウムでは, ナチュラルヒストリーに画像データベースがもたらす効果と, その将来的課題を取り上げます。演題・討論の並ぶシンポジウムと同時に, データベース画面を見ることのできる実演ブースを準備します。また, 国立科学博物館の衛星放送番組として収録を予定しています。

#### 講演プログラム

- 13:10 生物分類学における広域分散型画像データベースの重要性と問題点  
今井弘民 (国立遺伝研)
- 13:40 哺乳類頭骨画像データベース  
茂原信生 (京都大霊長類研究所)・山田 格 (国立科学博物館)
- 14:10 牧野標本館所蔵タイプ標本画像データベース  
加藤英寿 (東京都立大牧野標本館)
- 14:40 インターネットを活用した生きもの調査  
岩淵成紀 (仙台市科学館)
- 15:10 画像データベースの維持管理システム  
鶴川義弘 (宮城教育大)
- 15:40 休息
- 16:10 総合討論

## 画像データベース展示・実演

## 哺乳類頭骨画像データベース

茂原信生（京都大学霊長類研究所）・高橋秀雄（獨協医科大学）・  
山下真幸（獨協医科大学）・山田 格（国立科学博物館）

## 国際協力によるアリ類画像データベース

今井弘民（国立遺伝学研究所）・鶴川義弘（宮城教育大学）・  
久保田政雄（日本蟻類研究会）・R. W. Taylor (CSIRO, Australia)

## 牧野標本館所蔵タイプ標本データベース

加藤英寿（東京都立大学牧野標本館）・木原 章（法政大学）

## インターネットを活用した生きもの調査

岩淵成紀（仙台市科学館）・鶴川義弘（宮城教育大学）

主催：自然史学会連合，共催：日本哺乳類学会，国立科学博物館

問合せ先：自然史学会連合事務局 遠藤秀紀

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館動物研究部

tel. 03-3364-2311, 03-3364-7127, fax. 03-3364-7104

e-mail : endo@kahaku.go.jp

（田中次郎 東京水産大学）

## ふれあいサイエンス2000

## ミクロの生物探検隊：「ケイソウ」を使って水環境を調べよう！

中学生・高校生を対象に，珪藻を用いてミクロの生物の世界の面白さを知ってもらおうと共に，身近な水環境を考えてもらうプログラムです。

## 日程と内容：

- 2000年12月23日（土）オリエンテーション，コンピュータを使用した事前学習，  
河川での珪藻採集（バス使用）  
12月24日（日） 試料作成、顕微鏡観察，珪藻を用いた水質判定の実施，施設見学  
（東京学芸大学にて）  
12月25日（月） 授業と電子顕微鏡観察，施設見学（日本歯科大学にて）

参加費：無 料

応募締切：2000年11月24日

内容に関する問い合わせは真山茂樹(TEL 042-329-7524, E-mail: mayama@u-gakugei.ac.jp)まで。

応募・一般的な問い合わせは、日本学術振興会研究事業部研究事業課(TEL 03-3263-1721)まで。

## 2000年度「藻類談話会」のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の4名の御講演と、公募による大学院生などの若い研究者の研究発表会を企画しています。ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日 時：2000年11月11日（土）13:00 - 17:00

場 所：(株)関西総合環境センター（KANSO）9階会議室

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-3-5 安土町センタービル内

TEL 06-6263-7337（環境評価部水域調査チーム杉野）

講演予定（敬称略）

寺田竜太（高知県海洋深層水研究所）：海洋深層水を用いた大型藻類の培養について－現状と課題－

今井一郎（京大院・農）：微細藻類と海洋細菌の関係

本多大輔（甲南大・理）：高度不飽和脂肪酸を蓄積する海生“菌”ラビリンチュラ類の系統分類

三村徹朗（奈良女大・理）：車軸藻のリン酸代謝－生体膜輸送と生理作用－

研究発表会：藻類を研究材料とする大学院生などの若い研究者による発表を募集します。発表は1演題当たり討議を含めて15分を予定しております。演題の申込締切りは10月2日（月）です。参加費：500円（通信費など）

談話会終了後、会場内で懇親会が予定されています（会費：一般3000円、学生1000円）。談話会および懇親会の参加希望者は下記までご連絡願います（当日参加も可）。申し込まれた方には後日、詳細についてお知らせいたします。研究発表会の演者・演題などの最新情報は下記ホームページに適宜、掲示しますのでご覧ください。

\*会場への道順

地下鉄（堺筋線）堺筋本町駅下車12番出口より東へ徒歩2分

地下鉄（中央線）堺筋本町駅下車1番出口より北へ徒歩3分

地下鉄（御堂筋線）本町駅下車1、3番出口より東へ徒歩10分

阪神高速本町出口すぐ。会場周辺の地図については、次のホームページをご覧ください。

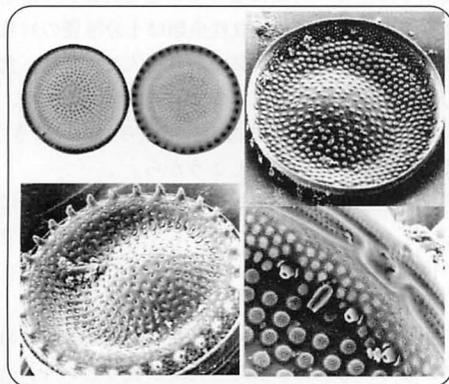
<http://www.kanso.co.jp/gaiyo/honsya.html>

参加申込・問合せ：〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学総合人間学部自然環境学科

幡野恭子 TEL：075-753-6854 FAX：075-753-6864 e-mail：hatano@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

藻類談話会ホームページ：

<http://biotech1.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/ws.exe/websql.dir/100HP/100hpdetail.htm?id=475&site=btj&gid=6>



### 表紙の説明

*Cyclotubicoalitus undatus* Stoermer, Kociolek & Cody  
近年日本から出現が記録された小さな珪藻です。  
本誌105ページ、田中・南雲より。